

# 広報かわにし

発行所	川西町役場
発行者	川西町 中村 吉
(町長)	金子 幸風
編集人	白 兩 部 5
印刷所	白 1 部 5
印 価	1 部 5
定 価	1 部 5
人口	14,558
(7月1日現在)	
男 子	7,258
女 子	7,300
計 数	14,558
世帯数	2,762

## 住民の審判せまる

ことしは選挙の年、農業委員会委員の選挙が八月に、九月には町長選挙が行なわれる。平穩そのものの町にも、やがて選挙一色にぬりつぶされる日が出てくるのだらうか。  
きたない、不明朗な選挙をしたくはない。今から十分に検討して、正しい一票を行使していただきたいものである。

## 農業委員は来月が改選

**全町一區で 十四名の委員を**  
農業委員会委員二十九名(選挙された委員は十九名)の任期(三年)は八月いっぱいである。したがって、任期満了前の三十日以内に選挙しなければならぬ。定数条例の改正で定員二十一名となったが、このうち十四名の委員を、ことしから全町一區(大選挙区制)で選挙するわけである。あとの七人は学識経験者一名のほか、農協四、共済一の各理事が、それぞれ選任委員として加わることになっている。

いまでもなく農業委員は、町の農民を代表して農業振興計画を樹立し、これを町から執行してもらう段どりをするという大事な使命をもっている。このため町の農林係、土地改良区、農協、共済、普及所などとよく連絡を保ち、これら農業団体との中間に立つ農民の代表機関として、助言、あっせん、その他の協力援助を行なってくれるわけである。

有権者は、農業委員会の委員選挙人名簿に登録されていなければならぬ。この名簿に登録される資格のある人は、昨年十二月一日現在で面積十アール(一反歩)以上を耕作している者と、その配偶

### 町長選挙は九月

現町長の任期は九月三十日で満了となる。公職選挙法によると、任期満了前の三十日以内に選挙を行なわなければならない。このため町選管は、八月中旬に委員会を開いて選挙の期日を決定するが、これによって告示の日もきまる。告示は少なくとも選挙の七日前まで



ママのひとりごと

ミコちゃん、痛くてもガマンしてね。これで、あの恐ろしい伝染病を防ぐことになるのよ。  
でも困ったわねえ、赤痢の注射はないのかしら…。あ、そうだわ。ママが手洗いの習慣をつけさせてあげる。寝冷えや果敢暴食もさせないようにしなっちゃ……。  
千手保育園にて 押木秀治撮影

### 名簿の確認が先決

投票の日がきまると、町選挙管理委員会ではただちに補充名簿を

に行かない、告示と同時に立候補を受け付けることになっている。立候補者は、告示の日から投票日の前日まで選挙運動ができる。現町長が再出馬するなら現職のまま立候補できるし、かりに立候補者が一名の場合は無投票当選となる。一名以上の候補者があれば当然「投票」になり、このうち立候補者の一人が辞退した場合は選挙の日が五日間延期されて、選挙当日の二日前まで補充立候補を受け付ける。

### 娘はなぜ農村を逃げる

「百姓に嫁がない…。」これが、村の若い衆の心からのなやみである。きりやうよしのミツちゃんも、気だてのやさしい花子さんも、都のネオンにあこがれて出てゆくのだろうか。

### 町づくり

山背く水清い川西で、あなたかへはぐくまれて成長する娘たち、それが、あどけないお下げを捨てるころから割り切れない思いにかられてくるという。しきたり、世間態、格、家風などに加えて、近隣の勤務評定が縁談に大きく影響することをさとするからだ。

そればかりではない。希望にもえて農家にとつき、夫と協力して新しい家族関係を願ってもダメ、そこには伝統をゆずらない人がいて、いきおいマサツも起きようというものだ。それにもう一つ、ふたりだけの夜がほんに短かく、しかもソワソワしなければならぬことはやるせないものだ。そう、ホロリ涙で風呂(ふる)したく嫁御、煙いばかりじゃないらしい。という昔のうたを、深くかみし

投票するには選挙人名簿に載っていないなければならない。だから、名簿の閲覧(基本選挙人名簿)または従覧(補充選挙人名簿)期間中に、自分が確実に載っているかどうかをよく確かめ、もし脱落していたら、補充名簿の登録申請期間中に登録申請をしてほしい。ともあれ、われわれの審判は迫ってきた。公明選挙をお忘れなく。

めてみる必要があるようだ。もちろんしあわせに暮らす家庭は多い。しかし、毎日こんな悲しみに明け暮れるアネサも少なくはないのである。「あたし百姓は好きなの、でも」とためらう娘は、都にあこがれるよりも「村を出さずれば」というのが本心らしい。アンニヤサがいくら追いかけても逃げられてしまっわけだ。

「ボクは一生この土地で暮らさねばならぬ。早く嫁をもらって幸福な家庭を」と願うのに、意中の人は村を離れて行く。オラには嫁がないのだろうか」と、きょうも青年たちはなげくのである。

この問題を解決するには、農村のしきたりを根本から改革しなければならぬ。が、現実とはともかくとして、ミツちゃんや花子さんが喜んで農家のアネサを希望するふんい気をつくることは可能だ。それはみんなの考えかた一つにある。「オラこんげのどへ嫁に来ておどろかしたかノ。」というような発言は慎んでいただきたい。都会育ちの娘さんが、すっかりこの土地になつてしまった例も少なくないはず、農家の嫁になり手がないとは思われない。

町議会報告

農委の定数を減員

青年団の請願に論議集中

第四回町議会(定例会)は前号「町の掲示板」でお知らせしたとおり六月十日に招集された。

この定例会の主題は、農業委員の選挙による委員の定数条例の改正で、従来の十九名を十四名に減らしたものである。その他、専決処分として農業委員会費、国勢調査費関係の国庫支出金一万八千円の追加一件と、請願九件が審議された。中でも新規請願として提出された「川西町青年団育成請願」については、活発な論議が集中し、議会として青年団に対する関心と期待が大きいことを示したものであった。

選挙委員は十四人

農委選挙は大選挙区で

「農業委員の選挙による委員の定数条例の一部改正案」については、選挙委員を減らすこととともに、従来旧町村の地区ごとに設けられていた選挙区を廃して大選挙区制とすることも、これまでの経過並びに法律のためから、やむを得ないものとして、波乱もなく原案どおり可決された。

三年前に現行条例制定の際、選挙委員の定数をめぐって激しい論争が行なわれたのち、原案の十四人を修正して十九人とした経緯は、いまだ関係者の記憶に生々しい。その結果、選挙による委員十九人に一号選任委員(農協、共済組合の代表)五人と、それから五人以内と規定されている二号選任委員の学識経験者も、いろいろの事情から結局最大限の五人を選任することとなり、合わせて二十九名と

欠くので、しいて小選挙区にしようとするれば、仙田と平場の二つにするか、または上野地区を二分してそれぞれの手、橋に合せて三つにするしかない。それでは意味をなさないので、今回は町一本の大選挙区制とすることになったものである。

齊藤議員辞職

町長選と補欠選挙

財政委員(副委員長)として、若さと、二十貫の巨体にあふれるエネルギーで、議会内に特異の位置を占めて活躍された齊藤寿美翁議員(一手)が、こんど転勤のため六月二十日付で川西町議会議員を辞職された。

齊藤氏は茨城県高萩市の出身。国鉄千手発電所に配電係りとして勤務していたが、今回郷里茨城県の水戸鉄道管理局へ転転することとなった。昭和十五年以来千手発電区に勤続二十年、その間昭和三十年千手町議会議員に当選以後引きつづいて合併後第一回の議員選挙に当選、五年間を終始財政委員(委員長、委員)として、町政に尽力された。

八重夫人は十日町市の出身で、二男一女があり、三十九才の半以上を送った川西の地は第二の故郷として、なごり尽きないものがある、と語っていた。

満場一致で採択

青年団の育成に強い関心

上程された請願九件のうち、八件は第二回定例会でそれぞれ所管の常任委員会に付託され継続審査となっていたもので、所管委員長から審議経過の報告があり、質疑討論ののち採択された結果は次のとおり。

- ◎請願第五号 根深開田事業費補助請願(さらに継続審査)
- ◎請願第六号 下原(土下)農道工事に関する請願(採択)
- ◎請願第七号 下原(坂下)農道工事に関する請願(さらに継続)
- ◎請願第九号 木島北原地区農道補助請願(採択)
- ◎請願第十号 千手農協倉庫建設補助請願(採択)
- ◎請願第十一号 農道(長福寺沢溜池際)災害復旧補助請願(保留)
- ◎請願第十三号 中仙田小学校・仙田中学校校舎敷地買収した請願(採択)
- ◎請願第十五号 橋小学校老朽校舎無償払い下げに関する請願(採択)



齊藤寿美翁氏

なお新規請願として川西町青年

はまた小選挙区制が適用されるので、千手地区だけで議員補欠選挙が行なわれる。

「経費の面で、会費は徴収しているが、それだけで事業にまい進するということも、容易ではない。それで自分たちの会費とともに町の育成費をもっと運営していきたい」という切実な要望である。

まず実績が必要

市川富二氏「青年団の活動状況とか事業計画等がまだ一般に知られていないし、私もよく知らない。そういう状態の青年団に昨年保留した分までも、ということがいかにどうか。補助するにはある程度世間一般から認められる実績が必要なのではないか。」

また、育成もしなければならぬが、あまり多額の補助は、間違いの種になってはまずい。何か具体的な計画があったら聞かせてほしい。」

紹介議員田中三郎氏「青年団の活動面がはっきりしないと申されるけれども、これは補助事業というよりむしろ育成事業であって、自主的な盛り上がりと同時にやはり町が育成してやらねばならぬ。青年団としては産業・文化・体育・総務の四部門において、それぞれの機関とタイアップして進展をはかりたいというのであるが、さしあたって目に見える大きな事(次ページ上段へ)

(前ページ六段から)  
業はやっていない。けれども目に見えたものがないから放置しておいていいということではない。盛りあがった時期を失わないようにご協力を得たい。

沈滞をきわめておった青年団が立ち上がるため数回にわたって会合を重ね、今後の計画を練っておるわけである。保留した五万円は本年度に限って再建のため、お願いたしたらいとこのこと、来年度からは他団体並でけっこうである、というものである。

**国鉄公舎にも呼びかけよ**

齊藤寿美翁氏「①青年団員の資格はどのようきめられているのか。②私どもの国鉄永久公舎等の青年には呼びかけがないが、その点どうなっているか。」

紹介議員田中三郎氏「職前は満十七才になると半強制的に入団させられたが、現在は定高等があり、任意制で会員を募集している。年齢は二十五、六までが普通であるが、仙田の一部に三十一才までという例もある。

永久公舎については、以前多少お話をしたことがあったそうであるが、青年団員としての資格について、性格や運用上の問題に不一致の点があつて入会していただくことができなかったということである。最近のことはわからない。

市川富二氏「どういうりっぱな肩書の長ができるまでにはそれだけの経過があつたことと思う。それをお聞きしたい。」

紹介議員田中三郎氏「青年団、青年会というものはずっと存続しているのである。ただその活動が活発でなかったというだけである。最近のことはわからない。

齊藤寿美翁氏「川西町青年団連絡協議会は日本青年会(日本青年団協議会)というような上級団体との関連性はどのようになつてゐるか。」

紹介議員田中三郎氏「この青年団はやはり奥青連にはいつている。したがって富士山ろくのキャンプは奥からの出席要望によつて、奥の代表として参加したのである。」

富井正治氏「部落の青年層のうち、会員たる数は何パーセントぐらいか。」

紹介議員田中三郎氏「数の点ばかりとわからない。」

**団新築費として助成**

町長中村壮吉氏「今の請願についてこれまでの様子を申し上げて了解を願いたい。」

まず千手の場合は、戦後男女合同の青年団を作つたのであるが女子青年ということはそのころから出たわけである。そして、私が団長をしたときもそうであつた

が、会費をとらないで勤労奉仕の収入でまかなつていたのである。それが雪崩りなんであるが、営造物が大きくなつたり、よそへ出かせきするとか、労銀が上がつたといふことで、うまくいかなくなりいくらかずつ会費をとらなければならぬ事情になつた。そこへ、定高や青年学級へはいれる者は、それそれまたそのほうの事業があるので勤労奉仕もなかなかできないといふようなことで団員がだんだん減つてしまつて、自然消滅になつたのである。

他地区では元の若連中の延長の青年団が存続してゐたが、やはり容易でない運営状況で、共同募金の奉仕や映画等をやつてもうまくゆかず、期せずして沈滞せざるをえなくなつてしまつた。これは悲しむべき事態だけれども、それが今日、あつてなきがごとき青年団を生んだのであり、川西町の中心青年団として活動しなければならぬ千手の青年団が消えたやうになつて、団長があつて団員がないという状況である。

そういうものに助成すべきでなくて、活動している団体に助成すべきではないかというのが、先ほど紹介議員のいわれたとおりなのである。だから、ここで再建したならば今度は今までのやうなゆきづまりをきたすような会にしてもならぬやうに願ひたいといふのである。

それで、せつかくここで再建するとしたならば、去年の保留した分という解釈がむずかしいとしたら、この連合団体を作る新築費といふことにして(笑)それが五

万円になるかどうかよく調べ、そしてことしの補助金の五万円とあわせて交付することにしたい。

昔の若い衆仲間ではない  
滋野一郎氏「私はこの議会の中で一番若いので青年団にも近いし、数年前に青年団をあがつたばかりで、一応現在の青年団、四、五年前の青年団の実情といふものを見たり経験してきたことをお知らせして、ご協力を得たいと思つて、過渡期として停滞した青年団活動といふものが、ドン底に落ちたのは昭和二十六、七年ころであつた。終戦によつて日本の国是が変わつたときから青年団が思想的に動揺し、世の中が落ちつくにつれてかつて混迷状態に陥つていつた。そのころ私は青年団役員を四、五年やつたが、私たちの地区はドン底時代であつたと思つた。その後青年団といふものは全く名だけで実際の活動は全然されず、役員はあるが会員がないという状態であつた。

そのような状態が続いたのち、昭和二十六年ごろから私たちの地区においても一つの落ちつきを見せて、立ちなおりの状態にもどりはじめ、充実した内容の青年団活動が徐々になされてきつたわけである。それがここ数年のうちに非常に勢いで充実されてきて、一昨年から地区から橋地区における青年団活動といふものは、非常にりっぱな実績をあげている。それが去年あたり頂点に達して、川西町の青少年実績発表会といふところまでこぎつけた。そして各地区の青年団に呼びかけて、連合協議会の結

集に努力しているわけである。まだ皆さんが期待しているようなものはなほない活動というようなことは見当たらないけれども、人間としての修養年代にある青年としての行動において、藉敷の目をもつて見守る事態がしばしば、昔の若い衆仲間という觀念は通用しなくなつてゐる。会員も定高とか、高校へ行つてゐる者は入会してないが、家事に従事している者の九〇パーセントは入会しており、連合青年会にもはいつてゐるおそろく、ほか地区においてもその気運にむかつてゐると思つて、せつかくここまで盛り上がつてきたのであるから、この際大きい援助の手をさしよつていただきたい。青年だけではやつていけない何物かがあるので、町や各種機関から援助してやる必要がある。

また、一部官舎の青年がはいつていないといふことであるが、これは当局としても助言してはいつていただき、川西町の青年が一つの組織を作つて自主性に目ざめていくことに対して、町から特段のご援助を賜りたい。」

**開田に奉仕して意気示せ**

黒島豊二氏「私どもの青年時代と違つてゐる点を申し上げたい。

これほどりっぱな計画を立てておきながら、一人百円の経費を捻出するのが容易でないといふことは理解できない。今の時代に、青年がこれだけりっぱにやり、活動していかなければならぬのに、全部町にだけたよるとか、他人によりかかる、といふことでもなく、

自分たちもこの際根柢の開田あたりへ一日ぐらゐ出て、それを経費にまわすぐらゐの意気でもやつてほしい。

たよることより、まず自分たちが経費を作ることに努力していただきたい、ということに注文していただきたい賛成したい。」

**青年活動の発展に期待**

田中金造氏「川西町青年団連合会の組織がこのたび盛りあがつて、ここに助成を請願されたといふことに私は賛成する。なぜなら青年時代がいちばんたいせつな修養時代であるからである。

ついでに、この名簿にまだのつていない部落青年会があるやうに見受けられる。それらを全部つらねて大いに青年活動を発展させていただきたい。

なお、先ほどの町長さんの「発足当時は金のかかるものだから」といふことはほんともであるが、三十四年度の保留された五万円を、といふことは適當でない。これはさういふことでもなく、本年度は発足当時からといふことで、特別出してやることにしてはどうか。私はこのようにご意見申し上げて請願採択に賛成する。」

高橋惣八郎氏「これは、まことにけつこうなごだが、とかく青年の本能として、はじめは着実にやろつと考へてゐても、はなやかな方向へ進む傾向があるので、慎重に考へて、しっかりした青年団を設け、組織していただきたい。その上で要望の十万円をさしあげてもらいたい。」

# 1 町議会報告 1 追加二百六十万円を議決

## 学校と土木の施設費が主体

第五回町議会臨時会は、昨八日に招集された。この日は二十四名の全議員が出席して午前十時二十一分に開会、七月四日付で辞職を申し出た高橋信吾議員の辞表を受領したこと、などについて小林議長から報告があったのち、①専決処分報告、②昭和三十五年一般会計歳入歳出追加更正予算、③昭和三十五年学校建築特別会計歳入歳出追加予算、の三議案を原案どおり可決。ひきつづいて④木島北原の開田補助請願(採択)、⑤田戸に可搬動力ポンプ購入の請願(採択)、⑥赤谷消防水槽設置の請願(採択)を審議して十二時十七分に散会した。あらましは次のとおりである。

### 千小ステージに 八十万円

一般会計は二百六十七万八千三百円が追加された。学校と土木の施設費が中心であり、ほかに、やむを得ない人件費や事務費などを加えて編成したものである。

支出に見合う財源としては、町税の収入増が二百二十万円、国庫の支出金九万七千七百円、負担金収入一万九千二百円、合計二百三十一万六千九百円が見込まれた。

差し引き三十六万一千四百三十円の不足は、予備費を更正して収支のバランスをはかった。均衡のとれた健全な予算であるといえる。

歳出の大半は、別記のような学校建築特別会計への繰り出し金である。千手小学校のステージ建築費は当初に五十万円を計上してあったが、こんど八十万円を追加した。土木費は五十四万四千円、高田地内の舗装工事費追加分二十

六十万円の増額が認められた。この結果、早急に起債を申請するの必要に迫られたが、このためには国庫補助金を百二十五万八千円に、起債はその倍額の二百五十万円に見込んだ予算を組まなければならず、町長の専決によってやむを得ず予算書を作成した。

### さらに

#### 百十万円を追加

町長の専決によって前記の予算が組まれたのち、小杉土建との間に第二次工事分の随意契約が行なわれた。この結果、屋体の昇降口や給食室、宿直室、小使室、便所などの付属建物は、旧校舎の古材を活用して建築することになった。入札の額は二百六十五万円である。そこで、不足分の百十三万円を一般会計から繰り出して追加したわけ。学校建築特別会計の総額は八百五十五万円となった。

### 信望のあつた手腕家 辞職した高橋氏

高橋氏について、こんど町議会議員を辞職した高橋信吾氏は、赤谷の旧家に生まれてこの町に育った。県立柏崎農学校を卒業後大陸に転戦して復員、現在はタツ夫人との間に一男一女がある。



高橋 信吾氏

昭和二十八年に仙田村議会議員に当選、頭のキレル最年少の議員として高く評価され、合併によって川西町議会議員となり、引きつづき議員に当選して財政、総文の委員を歴任し、新町の建設に力を尽くされた人であった。

### 戸籍の窓から

#### 昇天―御めい福を祈る

中条 寛治 大倉 六〇  
齊木 ツ子 高倉 七〇  
長谷川 タツ 赤谷 六三  
雨雲 テルイ 中仙田 六一  
村山 益代 高原田 〇  
中村 クメ 坪山 七六  
田村 智子 鶴吉 〇  
芳賀 福造 木島(東京) 七一  
戸田新八郎 中島町 六一  
柄沢 金二 沖立 七〇  
上村 トク 上野 三八  
戸田 タカ 仁田 六三

#### うぶ声―御すこやかに

小林 秀海 中仙田 三郎 二男  
小川 陸 赤谷 金吾 長男  
齊木 利幸 高倉 金作 二男  
青木 洋子 田戸 信作 二女  
登坂 和雄 岩瀬 侃浩 長男  
小林 幸枝 中仙田 功七 長女  
児玉 尚 田戸 達雄 長男  
佐藤 敦 中島町 茂夫 二男  
蔵品 正紀 霜条 利平 二男  
太田 明 水口沢 一雄 長男  
小幡 和示 仁田 英二 二女  
山田 明美 塩 辛 元一 三女  
大久保和也 野口 誠太郎 三男  
森永 秀夫 仁田 健市 二男  
野沢 明美 野口 三郎 長女  
小海 明美 小根岸 敬太郎 長女  
高橋智恵子 三領 寛治 長女  
押木 洋 田戸 早二 二男

### たかさご―御円満に

- ◎新 登坂 義弘 岩瀬
- ◎新 森 しま 茨城県から
- ◎新 清水 清司 上野
- ◎新 山本アイ子 広神から
- ◎新 水品 恒夫 三領
- ◎新 町田 恵美 水原町から

「と前おきして、次のように語ってくれた。  
「有権者のみなさんにはまことに申しわけないが、議員として会議に出席することができなくなったので辞職した。後任には、この町にふさわしいりっぱな人を選んでいただきたいと思う。長い出かせぎのようなつもりで出かけるので、村を離れるという実感がわいてこない。今のところ、この土地を永久に去るという気持ちはない。」  
▽高橋氏の辞職により、仙田地区でも千手と同様に、町長選挙にあわせて補欠選挙が執行される。

### ふるさと

待望の文化財総合調査報告書「かわにし郷」が出版された。考古・生物・歴史・民俗の各篇それぞれに克明な調査結果がまとめられており、担当調査員諸先生のお骨折りのほどが忍ばれる。考古・歴史篇には見慣れない固有名詞や難解な語句が多くて、必ずしも一般的とはいえないが、古文書を解説してこれだけにまとめた苦心は並たいていでなかったことと思う。この点むりな注文かも知れないが、今後さらに努力して町民のたれもが理解できる形で発表願いたい。と

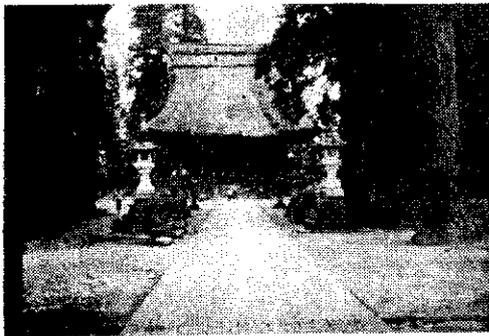
にかく本書によって、現実になれわれが住んでいる川西町が、遠く十数年前の無土器時代にまでつながっているらしいという驚くべき事実や、「生かさず殺さず」といわれた封建治下の恩のつまるような農村の生活を「御仕置五人組帳写」等によってまざまざと実感として与えられる。現在われわれが当面しているいろいろな問題も、われわれの祖先が生きてきた条件をぬきにして、その根源をきわめることはできない。このようなコソトウ趣味に使う金があったら生きた人間の社会に用いるべきだ」という評もあつたというが、教育予算の現状などからそれも一概に否定はできない。しかし、節約しなければならぬムタはもつと別のところにはあはしないだろうか。聞くところによれば、その後発見された資料も少くないという。貴重な文化財が失われぬよう後世にのこすことはまた現代に生きる者の義務でもある。

千手観音の由来

坂上田村麿呂が建立

歴代の武将も守護職を

もうすぐ十七夜... 遠足の日のおもいで忘れられたとしても、あのなつかしい十七夜だけはみんなの心に生きています。が、千手観音の由来を知る人は案外少ないのではなからうか。奥山湖南師(長徳寺住職)と高橋友義氏(町教育係長)に伺った話をまとめてみた。



観音様は

川西が好き

延暦二十年(一千百五十三年前)のことである。ときの征夷大将軍坂上田村麿呂が陸奥の逆徒を征伐しての帰り、ある夜、護持する大悲の千手観音が「わたしはこの地にとどまりたい」と告げた。そこで将軍は一堂を建立して安置し、伊勢乃平氏友重を長とする守護の土卒を残して都に去った。のち、信者が日ごとに集まり、ついには村落をなし、門前が伊勢平治と呼ばれるようになったという。



この観音像は名僧「延鎮」なる人が、楠の靈木で彫刻した二つの像(大きい像は京都の清水寺に安置)の一つだといわれ、建長年間(七百年前)には北条時頼が徴行して、供養料三十四石を寄せたという記録もある。天文年間(約四百年前)に焼失して再建立し、元和元年(三百四十年前)には徳川氏が朱印地として観音堂領と名づけ、慶安元年(三百七十年前)には家光が三十四石の朱印地を寄せている。現在の本仏像は高さ四尺二寸、尊像の裏に次の字句がしたためてあった。(〇印は確認できなかった字) 本仏焼失故経安花押



ミルクを飲む子ども

小学校ではじめたミルク給食(2年前)が、町の全小中学校におよぼすことになった。おまわりは、アメリカ産の粉ミルクで、1回分22グラムが2円弱といふ。おまわりは、アメリカ産の粉ミルクで、1回分22グラムが2円弱といふ。おまわりは、アメリカ産の粉ミルクで、1回分22グラムが2円弱といふ。

歴史は古い

十七夜

六月十七日は千手観音の命日にあたる。それが七月になったのは、旧暦をやめて月おくれにしたからである。いつころから十七夜がはじまったかは不明だし記録も全くないが、伊友の白山神社境内には馬頭観音が祭られており、門前で開かれた馬市から上杉謙信公の愛馬が献上(四百年前)されていることをみても、歴史は古く馬とも深いつながりがあったようである。観音堂守の任にあたりてきた宝鏡庵(開創不詳)は、慶長年間(長徳寺(長福寺六世の開山)と改称されて現在にいたっている。祭礼は年行事(世話人)を中心に行なわれた。安政年間(百年前)には毎年の折とうを十七日に定めて無病息災や五穀豊じようを祈願し、この日に大般若を行なうようになってから参拝の人がとみにふえたらしい。

宇宙時代の善男善女

さて、このころの十七夜はどつだろつか。競馬がすもうや競輪に勝ちいくさのたびに全盛をきわめていった。それは千手界わいだけの祭礼ではなく、三魚沼や刈羽、頸城からも善男善女が押しかけて朝の三時ごろから正午まで人波がつづいたという。戸板店が立ちならび、ロクロ首大蛇、のぞきメガネ、ヤオヤお七などの見物がにぎわった。サイ銭や地代は米にして三十俵分も上がった。お参りをすませ、競馬に参加した百頭におよぶ馬が、シャーンシャーンを鳴らして引きあげるさまは壯観であつたらう。

盆おどり泣いチツチ

明るい盆踊りが提唱されてから数年、たしかにハワイな歌詞は追放されました。わたしも過去にずいぶん踊りました。毎年全国の民踊が紹介され、推進されてき、わたしもとびついでその仲間にはいったものです。でも、最近になって何かしらものたりなさを感じてくるのです。それは、わたしたちの部落や町の盆踊りがだんだんうすれてくるように思われてならないからです。子どものころから耳にしたあのなつかしいメロデーが、年ごとにきかなくなっていくのではないのでしょうか。とつてもき

町の声

一農夫のねがい

彼場のサイレンの音が悪い。人はどう思うかしらないが、わたしの耳にはそうきこえる。くたびれたのだから。わたしは毎日遠い山で、十時のサイレンをほりあいに働いている。よくきこえるようにしてほしいものだ。(オート) 住所氏名をお知らせください。

明治末期が最高の人出

いちばんにきわったのは明治の末期から大正のはじめ、千手観音

# 楽しく明るい盆踊りを

## 保坂国夫

ことしもあと一カ月でお盆がくる。そしてさまざまな行事が行なわれるが、その中でも共通なものは盆踊りではないだろうか。毎年明るい盆踊りの運動がとりあげられ、それが実施に移されているが、その陰にはいくたの問題がひそんでいっているように思われる。そこで、このさい反省の上で、もういちどよく考えてみたいと思う。

### うらぼんに 祖先をしのお

このころに辞書を見ると、うらぼん(孟蘭盆)とは七月十五日にいろいろの食べものを祖先の霊に供えて餓鬼に施し、祖先のめい福を祈り、その苦しみを救うこと、となつてゐるが、この地方では八月に行なわれるのが普通である。どこの土地で生活をしていても生がい忘れることのできない生まれ故郷の美しき、そして土のにおい、人情味ゆたかな人間性、学校で共に勉強したなつかしい仲間たち。こんな思い出を胸に秘め、祖先の霊にけいけん心を捧げようと郷土に帰ってくるのもお盆である。

八月十三日には家中そろってチヨウチンにあかりをともし、祖先の霊をお迎え(墓参り)に行き、生前のご苦労をしのんで、当時の暮らした文化、そして社会のようすを思い浮かべて、今日の幸福に感謝しながら行なうのが正しいお盆行事と考えられる。これは、西洋にはみられない独特な、人間味にあふれた行事の一つといえよう。こうした考えかたで行なわれる

のがわたしたちの盆踊りである。いたずらに新しい民謡や、よその踊りだけをとりあげて、それを明るい盆踊りだとするならば大きな誤りがでてくるわけである。

### 先人の姿が 盆おどりに

この町に昔から伝えられている盆踊りを拾ってみても、三がいの節、葛句、たいのしやか、法界節、からすおどり、酒田、お七くどき、広大寺など、数多くのものが残されてゐる。しかし、これらの中には、当時の人たちがうたった歌詞をたぐひ替え、いわゆる「替え歌」にして受け継がれてきたものが非常に多いようである。

中魚沼郡誌を見ても、そのころの人たちがなんの娯楽もないころで、せめて土地の風俗やけしき(景色)、感情、願ひごと、そこでおきたいいろいろなことから歌に表わし、それを踊りに振付けられていたことがわかる。昔から伝わってきた盆踊りを、もし途中で替え歌にしたものがあるとするは、これらを調査して正しいものにし、音頭とを中心にした大きな輪をつくり、老人も子どもも楽しく踊って

昔を思い浮かべてみる必要があるのではないだろうか。

昨年、盆踊りのようすをテープに吹き込み、これを東京に送ったらしいへんに喜ばれた。川西出身の人たちが集まったときの一歩の楽しみだといふことであり、わたしたちも何か考えさせられるものがあるような気がする。

### 後世にまで 残したいもの

現在はまだに民謡ブームといわれる。それだけにさまざまなよその民謡が踊られてゐるが、盆踊りの主体はあくまでも郷土のものでなければならぬ。盆踊りの歌詞や踊りを、後世に正しく残していかなければならないのは、わたしたちのたいせつな務めでもあると考へてゐる。歴史があつてこそ現在があり現在があつてこそ未来が考えられるのではないだろうか。

わたたくしと社会教育主事講習を受講するため、このたび東京教育大学で勉強させていただきました。在学期間は、七月下旬から九月月上旬までの予定でございます。中村町長さん、杉本教育長さんをはじめ、関係者みなさまのご支援を心にきき取りまして、社会教育学の専攻にすべてをかたむける所存でございます。不在期間中、本紙の編集は北村準一氏(教育委員会)から担当(八月・九月号)していただくことになりました。社会教育の行政事務は、保坂国夫氏(公民館)と上村啓子さん(教育委員会)が担任していただくことになっております。右、つつしんでごあいさつに替えさせていただきます。 広報かわにし編集人 金子 幸作



### 新生活の村

旅人を手にとるように案内するこの道しるべは亦谷の青年たちが5年前に考案したもの。積極的なこの部落は建設欲にあふれ、青年の奉仕活動が村づくりのポイントになっているようだ。

写真は道標と青年たち 撮影.....高橋秀男

### 町の掲示板

封筒募金に協力を いま「社会を明るくする運動」の封筒募金中。回覧をよく見て、なにぶんのご考案をいただきたい町長室が専用。中村町長はいそがしい。つきつ

### 保護司会長に渡辺氏

町の保護司会長に渡辺満磨(西永寺住職)氏がきまつた。保護司を辞任した丸山豊太郎(前会長)氏の後任は田中久之(下原)氏。

### 普及所長に山家氏

山家庚一(木落出身)氏が、川西地区農業改良普及所長に就任(七月一日付)した。前所長の高橋源治郎氏は鮎石地区所長に栄転。

### 求人がゾクゾク

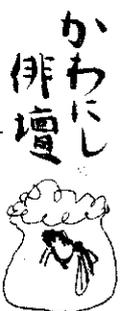
安定所を通じて求人が殺到している。待遇や条件は悪くないようだ。希望のむきは社会係へ。

### ラジオ農業学校

十三日、ゲージ養豚(講演会)を兼ねる。講師は信州大の玉井教授。二十五日、作業衣のくふう。八月五日、ネリ床の作りかた。

### 暑中見舞はがき発売

町の各郵便局で、暑中見舞用の美しいはがき(二種)を発売している。希望者はお早めにとぞ。



かわにし 俳壇 霜条 白濁 金山 柏樹選

○春蘭のよきつゆもちて置られし 簾はなれ荒壁に蘭二つ三つ 中仙田 遊人

○旭をあびて芽心としお銀色に 売られぬく小山羊に桑をひとか 元町 鉄平

父と子の表札並び軒しようぶ 連足の列とぎれてはとぎれては 越ヶ沢 辰治 蚕寝の妻の目くほみ上履期 小白倉 正信 地に動くてんとう虫の紅小さき

☆ ☆ ☆ 区長さん、いつもご苦労さまです。本紙をできるだけ早急に配布していただけないでしょうか。待ちわびている人が多いようです。◎北村さん、あなたのすぐれた手腕に期待しています。たいへんなことでしょうかどうぞよろしく。

◎勉強のためとはいえ、本紙をはなれることにはまらなくさみしさを感じます。十三単位を修得して論文書くころは、もう秋風がたつでしよう。

◎これから炎暑がつづきます。みなさま、おからだに留意ください。日ざかりを働く人にもうるおいは必要です。道の辺に清水流るる柳かけ、しばしとてこそ立ちとまりつれ (新古今集)